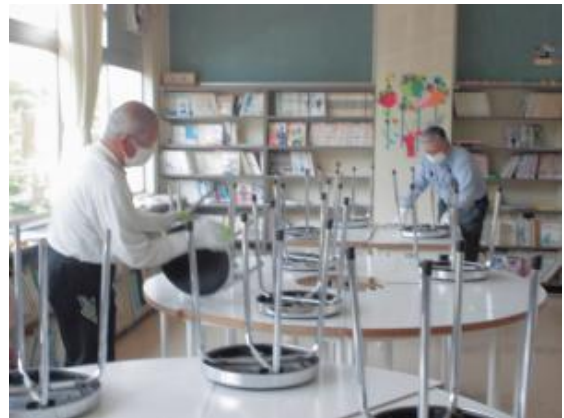


6月1日の学校再開日から学校運営協議会を中心に地域のボランティアさんによる消毒作業を行っていただいています。

丹波市内の学校では、新型コロナウイルス感染防止の一環として、校舎内の消毒作業を行っています。5月までは、教職員で作業をしていましたが、6月からは地域ボランティアさんの協力を得て、広範囲の消毒作業を分担して行うことができるようになりました。

沼貫地域の皆様の温かいお気持ちに感謝いたします。



6月13日（土）の神戸新聞にも掲載されました。

丹波市氷上町佐野の南小学校校区の住民有志が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同校校舎内の消毒を放課後に行っている。教職員の負担を減らすのが狙いで、住民は「先生は授業準備に注力してもら

地域住民が校舎消毒

丹波市・南小 教職員負担減に協力

い、児童の学習の遅れを少しでも取り戻してもらえれば」と話す。

地域住民らでつくる同校の学校運営協議会が呼び掛け、学校が本格再開した今月1日に始まった。同校ではそれまで、教職員が約1

布でくまなく消毒する住民＝南小学校

同校の谷口千尋校長(56)は「率先して協力していただき、大変ありがたい。子どもらのことを思ってくださる方が、地域にこんなたくさんいるなんて」とほほ笑む。

同協議会では、消毒作業

地域住民による作業は平日の放課後、午後3時半、同4時の30分間で行われ、当日授業で使われた特別教室や廊下が消毒される。11日は図工室や音楽室などで作業があり、集まった12人は消毒液を浸した布で、児童らがよく触れる窓枠や手すり、ドアノブなどの「コンタクトポイント」を丁寧に拭き上げた。

時間かけて校舎を消毒していたという。住民の協力を得て、教職員の担当箇所は現在、トイレや一部の教室などに減った。

の参加者を募っている。参加は毎日でも構わない。同協議会の打田哲夫会

長 0990・3264・8903

(真鍋 愛)

